

目的 衣生活に  
究では、年  
対する意  
営むため  
の基礎資  
料を得る  
こととし  
考察を試  
みた。

わが国でも  
は高齢者  
の温暖な  
気候条件  
下にある  
静岡県に  
在住する  
高齢者に  
ついて心  
身の健康  
と快適な  
衣生活を  
検討され  
ており、  
本研服  
や被服を  
快適な衣  
生活を

方法 静岡県内に  
在住する  
60～86  
歳の男女  
(外出が  
可能で、  
日常生活  
において  
ほとんど  
他を必要  
としない  
者) 350  
名を対象  
に、アン  
ケート形  
式による  
調査を1  
987年9  
月に実施  
した。調  
査内容は  
被服への  
関心・管  
理などに  
関する項  
目、購買  
行動・調  
達に関す  
る項目、  
被服や衣  
生活につ  
いての情  
報の受容  
に関する  
項目なら  
びに家庭  
を主とし  
た生活環  
境や生活  
歴など基  
本属性項  
目である  
。調査用  
紙は留め  
置きとし  
、一部の  
調査項目  
については  
家族との  
面接によ  
った。今  
回は主に  
クロス集  
計により  
分析し、  
高齢者の  
被服につ  
いての意  
識や行動  
の関連性  
について  
検討した。

結果 衣生活に  
関する意  
識は一般  
に男性よ  
り女性の  
ほうが高  
かった。  
関心は性  
差が大き  
い。被服  
による注  
目や承認  
意識の差  
が顕著で  
あつた。  
購買行動  
は男女と  
も低い傾  
向を示し  
た。経済  
的要因よ  
り学歴の  
違いによ  
る。調査  
方法は8  
0%以上  
が既製の  
服を利用  
してはな  
い。被服  
の形見分  
けしたい  
と考えて  
いた。

衣生活に  
関する意  
識は一般  
に男性よ  
り女性の  
ほうが高  
かった。関  
心は性差  
が大きい。  
被服によ  
る注目や  
承認意識  
の差が顕  
著であつ  
た。購買  
行動は男  
女とも低  
い傾向を  
示した。経  
済的要因  
より学歴  
の違いに  
よる。調  
査方法は  
80%以  
上既製の  
服を利用  
してはな  
い。被服  
の形見分  
けしたい  
と考えて  
いた。